

住友林業グループ事業紹介



 住友林業株式会社

大造林計画と保続林業の始まり



1881 旧製錬吹丸之図



2003 製錬所跡全景



伊庭 貞剛

1691年（元禄4年）
別子銅山開坑、江戸幕府より周辺山林の立木利用を許可

1894年（明治27年）
「大造林計画」を樹立。木材の過剰伐採と煙害で荒れ果てた別子の山々を大規模な植林で復旧

国土報恩

1903年（明治36年）
民間初の「施業案（森林計画）」編成開始 → “保続林業” 理念確立

1700 1800 1900

2000

(年)

山林事業

国内で46,247ha (国土の約900分の1)、海外で約200,000haの森林を保有、管理



- 1691 創業。住友家が愛媛県・別子銅山の開坑に伴い、木材の伐採・調達を開始。
- 1894 「大造林計画」を樹立。
- 1948 財閥解体が発令。住友本社林業所は6つの林業会社に分割。

木材・建材の流通及び製造事業

国内の木材・建材業界No.1商社



- 1955 国内材集荷販売体制確立。
- 1960 木材輸入業務本格化・拡大。
- 1964 国内に本格的な合板製造会社を設立。
- 1970 インドネシアに合板製造会社を設立。

住宅及び住関連事業

木造注文住宅のトップブランド



- 1975 木造注文住宅事業開始。
- 2003 米国での分譲住宅事業開始。
- 2008 豪州での住宅事業開始。

バイオマス・木化・生活サービス事業



- 2011 川崎バイオマス発電所 営業運転開始。
木化事業開始。
- 2015 デイサービス事業を開始。

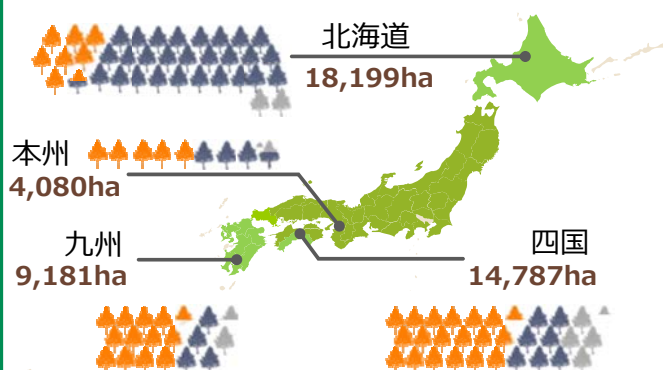
国内外での植林事業

日本国内の社有林

46,247ha 2015年4月1日時点



人工林 天然林 その他 =500ha



海外の植林管理保有面積

約226,000ha 2015年3月期末時点



=3,000ha

インドネシア
約160,000ha

パプアニューギニア
約31,000ha

ニュージーランド
約35,000ha

世界的な木材需要に対応するため、持続可能な木質資源を生み出す。
多様な組織と連携し、地球環境や世界の森林をまもる

産業植林

インドネシア/パプア・ニューギニアなどで、約20万ヘクタールの海外の植林地を管理。生物多様性保全や地域社会の発展にも貢献。



環境植林

多様化する森づくりのニーズに対応したコンサルタント。企業のCSR活動を目的とした森林保全・植林活動、ODA植林事業、REDD+など新たな仕組みの提案などを実施。



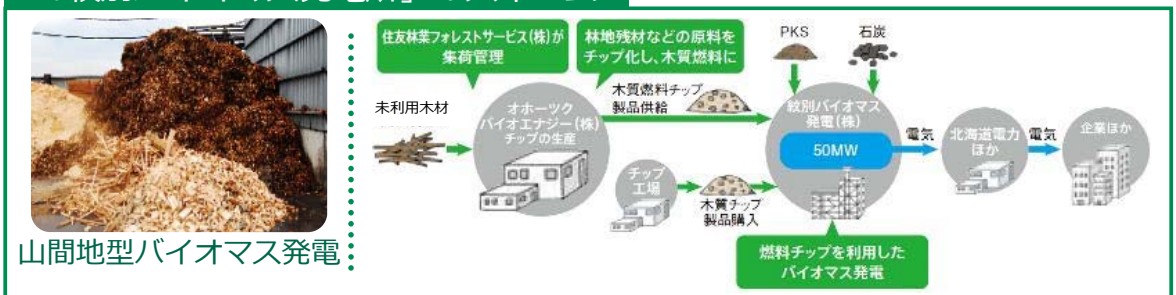
写真は、三井住友海上火災保険様からの受託事業
(インドネシア共和国 ジョグジャカルタ特別州パリヤン地区)

SUMITOMO FORESTRY CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED. 4

環境エネルギー事業

バイオマス発電事業は、エネルギー課題に対応する新事業領域であるとともに、山林の価値を高める事業

「紋別バイオマス発電所」のスキーム



紋別バイオマス発電
苦小牧バイオマス発電
八戸バイオマス発電

川崎バイオマス発電

「川崎バイオマス発電所」のスキーム



木と生きる幸福



住友林業

<http://sfc.jp>